

28年6月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年6月1日～ 28年6月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		28/6月	7月	8月
伐採動向	スギ	△ 37.5	△ 12.5	0.0
	ヒノキ	12.5	12.5	△ 16.7
	カラマツ	△ 75.0	25.0	25.0
	エゾ・トド	△ 33.3	33.3	33.3
出荷・販売動向	スギ	△ 25.0	△ 12.5	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	△ 16.7
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	25.0	25.0	△ 25.0
手持立木在庫動向	スギ	12.5	0.0	12.5
	ヒノキ	△ 16.7	△ 16.7	0.0
	カラマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
	エゾ・トド	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0

・スギの伐採は6月、7月の減少が、8月は横ばい。ヒノキは6月、7月の増加が、8月は減少。カラマツ及びエゾ・トドは6月の減少が、7月、8月は増加。

・スギの出荷は6月、7月の減少が、8月は横ばい。ヒノキは6月、7月の横ばいが、8月は減少。カラマツは3カ月連続の減少。エゾ・トドは6月、7月の増加が、8月は減少。

・スギの手持立木在庫は概して増加傾向。ヒノキは6月、7月の減少が8月は横ばい。カラマツ及びエゾ・トドは3カ月連続の減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・トドマツ間伐を実行中だが、通常の動きで推移(北海道)。
- ・7月の国有林素材生産の受注を目指す(北海道)。

(出材・販売動向)

- ・皆伐(立木処分)、8月からは請負なので販売なし(北海道)。
- ・出材調整なし。バイオマス発電用と製紙用原材料との調達の競合が始まっているので状況を見ている(北海道)。
- ・一時的にヒノキ柱材(3m)が値上がりしたためヒノキ中心に出材したが、現在価格は元に戻った(中国)。

(手持立木在庫)

- ・立木在庫は減少しているので、積極的に公売で購入予定(北海道)。
- ・手持在庫なし。7月以降、国有林立販入札参加予定(北海道)。